

特別養護老人ホーム「慈祐苑」

～増設部分で個室&4床室のユニットケアを実現（ステップ1）～

- 個室と多床室を組み合わせてユニットを構成し、リビングルームは、居室と近接したスペースに設ける。
- リビングルームには、ソファ、テレビ、ダイニングテーブルをおき、ミニキッチン、食器棚等を配置する。
- 入居前に使用していた家具を配置し、自宅に近い空間を創り出す。

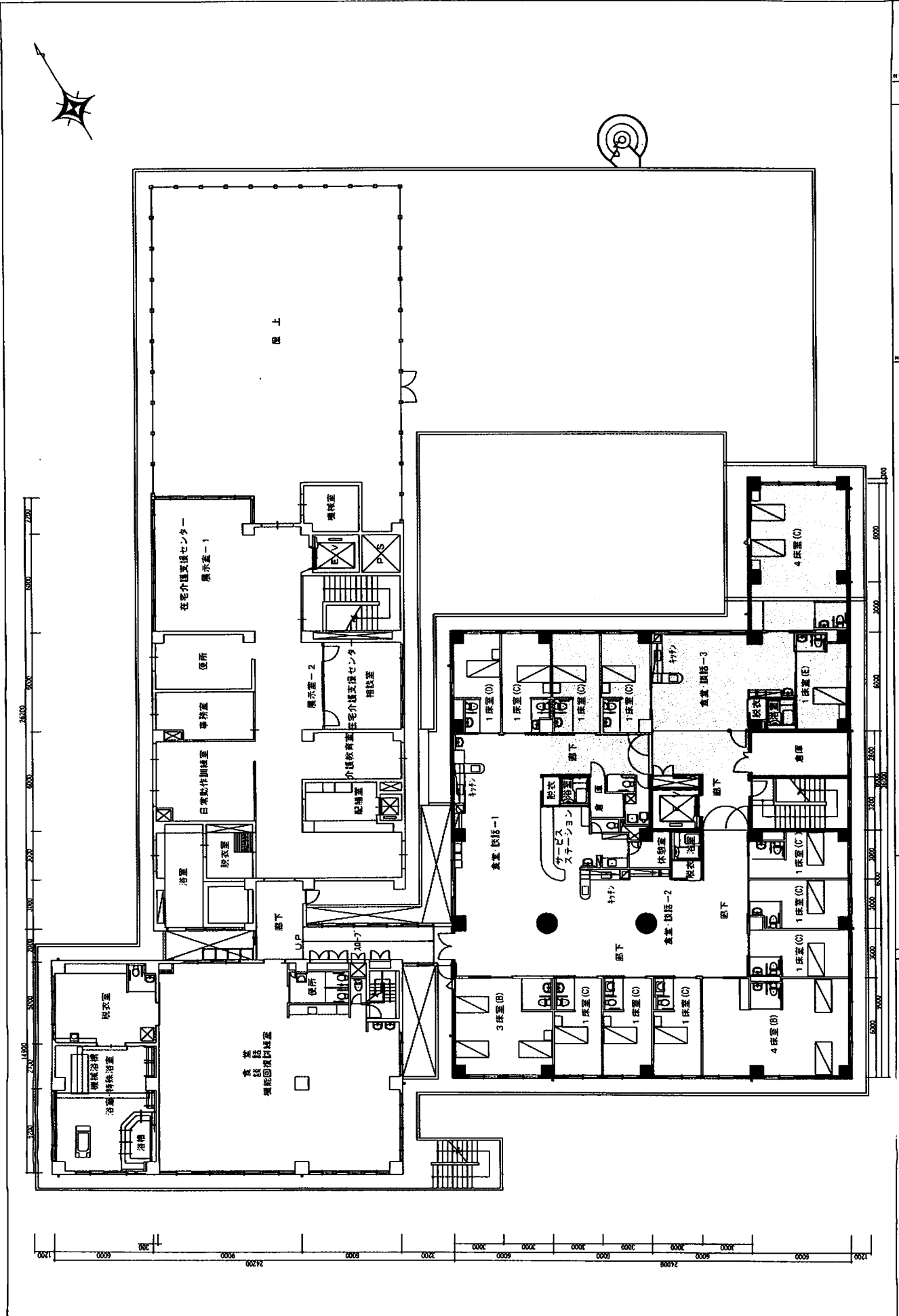
既存施設ユニットケア実践報告事例

施設名称		特別養護老人ホーム慈祐苑
運営主体		社会福祉法人慶美会
施設所在地		鎌ヶ谷市道野辺215-6
電話番号		047-446-3300
開設年月日		平成1年8月1日
施設 の 概 況	定員	157人(入所136人ショート21人)
	職員数	施設長 1 生活指導員 2 看護職員 5.6 (常勤5 非常勤0.6) 介護職員 70.4 (常勤42 非常勤28.4) 栄養士 1 調理員 11.2 (常勤6 非常勤5.2) 事務員 3.5 (常勤2 非常勤1.5)
	人員配置割合	2.06: 1
	概要	本施設は、平成1年に開設され、本年で13年を経過する特別養護老人ホームである。 鎌ヶ谷市道野辺に所在し、最寄りの東武線鎌ヶ谷駅から5km、自動車で10分の立地状況にあり、周囲のほとんどは梨畑である。建物はRC造りの3階建てであり、1階で56人。2階で79人3階で22人を介護しており、居室は4人部屋が29部屋、3人部屋が3部屋、2人部屋が3部屋、1人部屋が26部屋となっている。1階に1ヶ所、2階に1ヶ所、3階に3ヶ所のデイルームがあり、ここにキッチン設備をとりつけユニットケアを試みている。

ユニットケアの類型	ステップ1
<p>ユニットケアへ取り 組むきっかけ</p>	<p>痴呆性老人の介護の在り方を施設内で検討し、平成13年4月より施設内において、ユニットケアの勉強会を開始した。 その後、施設長の理解を得て、ユニットケア検討委員会を発足させた。 平成14年8月よりユニットケアを一部試みている。</p>
<p>現状において、ユニッ トケアを実践する上 での問題点</p>	<p>開設後13年を経過した施設であり、建物の構造がいわゆる回廊型で回廊式廊下に居室が並んでいる造りとなっていた。 平成13年と平成14年の2ヶ年事業として46床分増築し、5ヶ所のリビング・ダイニングにてユニットケアを試みている。 現状では、4人部屋や3人部屋等の多床室があり、完全個室のユニットケアを実施することは困難である。 今後は、大規模修繕等において全室の個室化を目指していきたい。 また、食堂や寮母室を改修し、キッチンシステム等を取り付けて、リビング・ダイニングを中心とした心地好いくつろげる空間を施設内のあちこちに作り出していきたい。</p>
<p>自分たちの考えるユ ニットケア</p>	<p>入居者が主体の、入居者1人1人に合わせた介護を実施したい。 現状では、完全個室のユニットケアを実施することは困難であるが、ダイルームを改修し、キッチンシステムを取り付けて、心地好いくつろげる空間を作り出していきたい。</p>

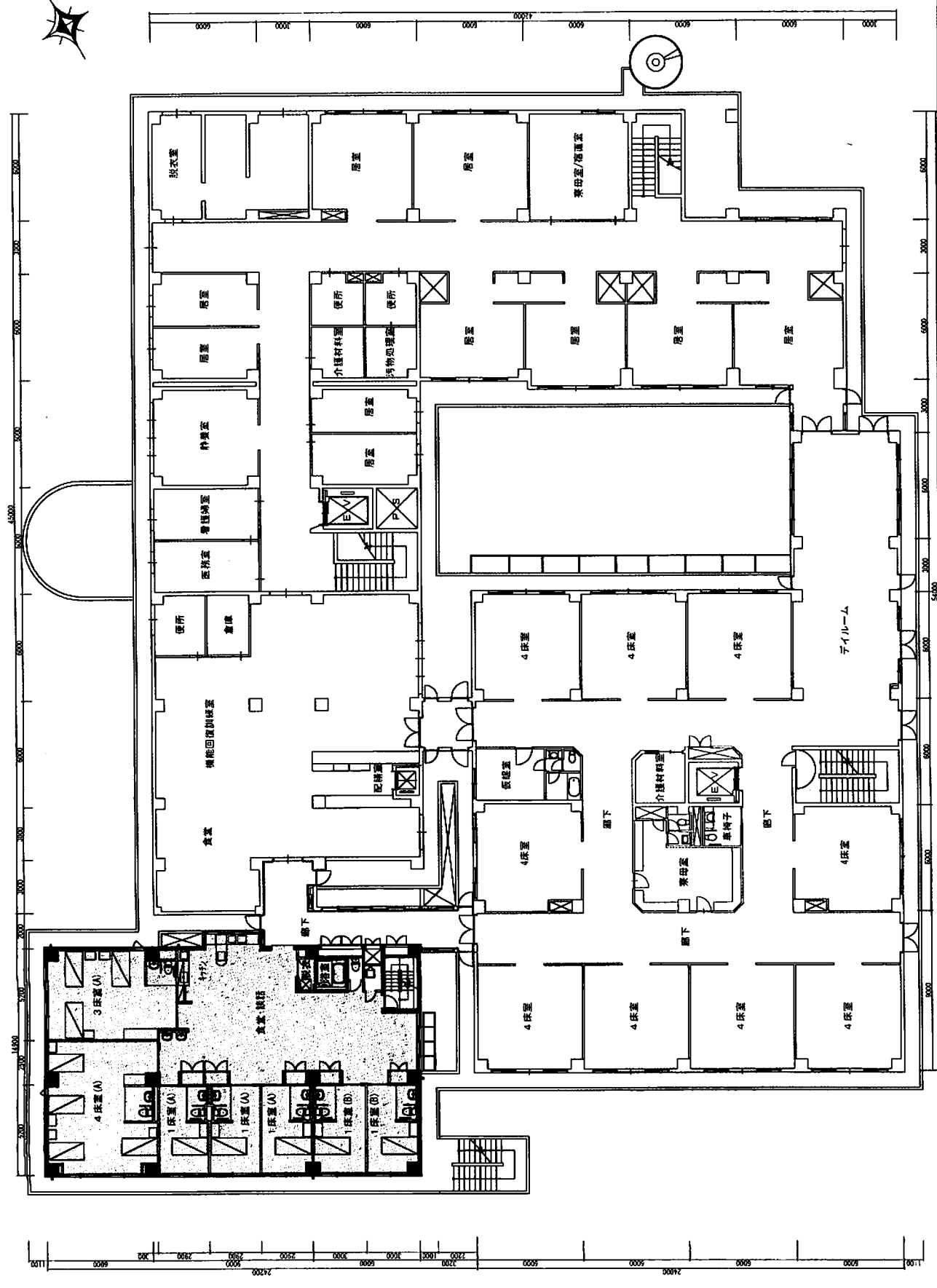
<p>必要と考えられる 人員配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護職員 70.4 名（常勤 42 非常勤 28.4）にて介護にあたっている。 ○ 現在人員配置割合は常勤換算で 2.06 : 1 になっている。これくらいは最低必要と考える。
<p>改修前の 施設配置図</p>	<p>別紙参照 ①</p>
<p>改修後の 施設配置図</p>	<p>別紙参照 ②</p>
<p>居室のイメージ及び 設置する設備・備品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ できるだけ落ち着ける自宅に近い状況を作り出したい。そのために四人部屋を個室に改修したいがスペース的・資金的に改修は困難であるため、雰囲気づくりを工夫した。間仕切りスクリーンでスペースを仕切り、入所前自宅で使っていた家具類を持参していただき、不可能な方は、ご家族と相談し購入していただき、自宅の自室に近い空間づくりをした。又、カーテン等にも気を配っていった。
<p>リビングルームのイ メージ及び設置する 備品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 完全な全室個室を提供することが困難なため、できるだけ落ち着けるリビングを空間作りたいと考え。家庭的な生活を営むため各リビングにはソファ・テレビ・ダイニングテーブルを置き、入居者が食事の準備や後片付けなどの家事ができるようにミニキッチン・食器棚・電子レンジ・冷蔵庫・食器乾燥機等を設置した。

職員に関する研修	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定期的な法人研修・施設研修をとりいれ介護のあり方を省みる。ユニットの現状を研修の中で伝えあうこと・議論しあうこと・思いを共有し方向性を常に見出してもらう。 ○ 入居者と職員と同じ場でよりよい暮らしを作るにはどうするかを定期的に話し合う機会を持ってもらう。入居者の気持ちを受け入れながら暮らしを考え、生活の支援をしていく視点がよりよいユニットを作り上げる。
理事長等経営者に対する意識改革	<ul style="list-style-type: none"> ○ 理議長等経営者にユニットケアの実施状況や成果を報告、説明する研修会を計画したい。
今後のユニットケアのあり方について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 従来の特別養護老人ホームにおいて、重度の方も支えてきたという介護力と知識を持ったうえで、自分もされたい介護を実現するという理想に取り組めるということは、すばらしい事と思われる。家族と職員が協力しながら生活のプランを作れることや外出したり、昔馴染みの人が気軽にきてくれたり、介護にかかわったりできることが人間らしく存在感のあるユニット生活につながっていく。



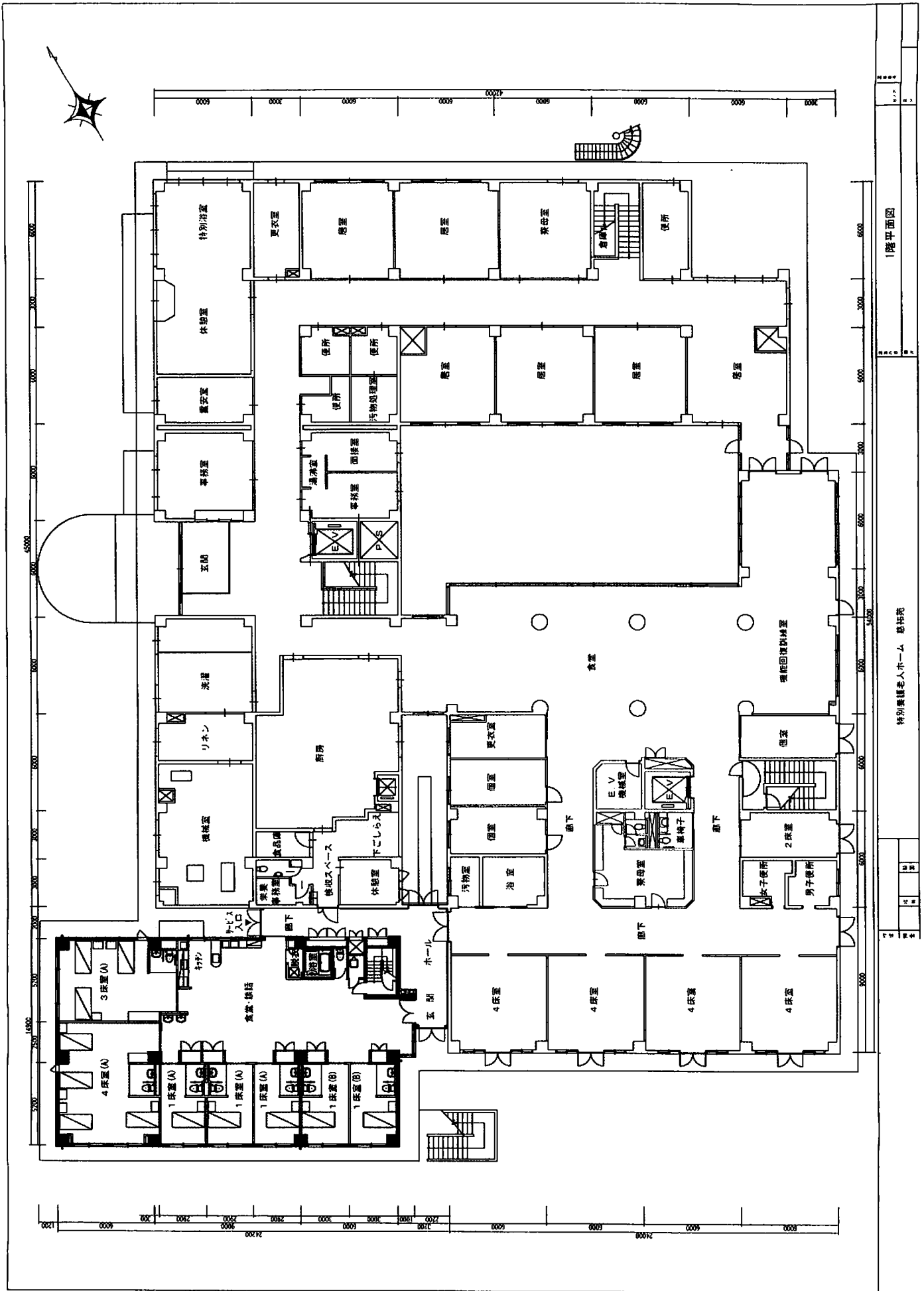
特別養護老人ホーム 葛祐苑

3階平面図



2階平面図

特別養護老人ホーム 慈祐苑



1階平面図

特別養護老人ホーム 慈格苑



